

I. 平成28年度の概要

1. 事業について

- (1) 公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、平成22年10月1日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。

この事業報告及び決算報告書は、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの期間についての当法人の事業活動を取りまとめたものである。

- (2) 平成28年度は、第一三共株式会社からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公1）並びに研究業績褒賞事業（公2）に区分して実施した。

助成事業 （公1）	1. 研究助成 （1）研究助成 （2）PIセットアップ研究助成 2. 海外共同研究支援助成（本年度休止） 3. 研究会・シンポジウム開催助成（本年度休止） 4. 海外留学奨学研究助成
研究業績褒賞事業 （公2）	1. 研究業績褒賞事業（第14回高峰記念第一三共賞） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（第33回高峰カンファレンス）

- (3) 本年度より、研究助成の一派生プログラムとして、研究責任者（PI）の研究ユニット立上げを支援する研究助成として「PIセットアップ研究助成」を導入した。尚、同助成並びに海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成は、隔年度実施とし、海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成は本年度休止とした（平成28年2月17日付で内閣府に事業変更届提出）。

2. その他について

- (1) 指定寄附金収入

第一三共株式会社より、平成28年4月20日、指定寄附金として、1億5千5百万円を受領した。

- (2) 主要事業活動報告

- 1) 平成28年4月12日の第13回選考委員会において、平成28年度 PIセットアップ研究助成の候補者、並びに第14回高峰記念第一三共賞第二次候補者の選考を行った。

- 2) 平成28年5月20日の第14回高峰記念第一三共賞審査委員会において、同賞の最終候補者を決定した。
 - 3) 平成28年6月1日の第23回理事会において、平成27年度の事業報告及び決算報告書、平成28年度 PIセットアップ研究助成者の決定、第14回高峰記念第一三共賞受賞者の決定、任期満了に伴う理事候補者の推薦、任期満了に伴う選考委員改選、「評議員会の日時及び場所並びに目的である事項」の件の各件について、審議され、承認された。
 - 4) 平成28年6月22日の第9回評議員会において、平成27年度決算報告書、任期満了に伴う理事改選の各件について審議され、承認された。
 - 5) 平成28年6月23日に内閣府に平成27年度事業報告等の提出を行った。
 - 6) 平成28年7月1日の第24回理事会において、理事長（代表理事）の選定、常務理事（業務執行理事）の選定の各件について、書面による決議がなされた。
 - 7) 平成28年10月24日の第14回選考委員会において、平成28年度研究助成候補者及び平成29年度海外留学奨学研究助成候補者の選考を行った。内、平成29年度海外留学奨学研究助成については、11月25日に内定者（5名）の面接を実施した。
 - 8) 平成28年12月2日の第25回理事会において、平成28年度研究助成対象者決定、平成29年度海外留学奨学研究助成対象者決定、高峰記念第一三共賞審査委員補充、廣部先生顧問選任、平成29年度事業推薦・応募要領、助成（褒賞）候補者推薦依頼先の各件について、審議され、承認された。
 - 9) 平成29年2月1日の第26回理事会において、平成29年度事業計画、収支予算及び資金調達及び設備投資の見込みについて、審議され、承認された。
 - 10) 平成29年2月1日、第14回高峰記念第一三共賞の贈呈式が実施された。
 - 11) 平成29年2月13日に内閣府に平成29年度事業計画等を提出した。
 - 12) 平成29年3月13日に第33回高峰カンファレンスを開催した。
- (3) 人事関係
- 1) 本年度は、理事及び選考委員は、任期満了に伴う改選があった。
 - 2) 平成29年3月31日現在の関係者の人員数について、役員は、理事16名、監事2名。評議員は9名（1名減）。選考委員は、19名（1名減）。研究業績褒賞に係る審査委員（高峰記念第一三共賞審査委員）は、6名。顧問は、7名（1名増）。職員は2名。
 - 3) 平成28年4月30日付にて、廣部 雅昭先生が一身上の都合により、評議員並びに高峰記念第一三共賞審査委員を辞任された。
 - 4) 選考委員について、第23回理事会（平成28年6月1日）において、任期満了に伴う改選が行われ、堅田 利明委員、瀬谷 司委員及び辻 省次委員3名が退任、3名が新たに就任した。

- 5) 理事について、第9回評議員会（平成28年6月22日）において、任期満了に伴う改選が行われ、衛藤 義勝理事、木村 哲理事2名が退任、堅田 利明先生、瀬谷 司先生及び辻 省次先生の3名が新たに就任した。
- 6) 第24回理事会書面決議（平成28年7月1日）にて、中山 讓治理事が理事長（代表理事）に、金子 次男理事が常務理事（業務執行理事）に選ばれ、各々就任した。
- 7) 平成28年11月30日付にて、竹田 秀先生が一身上の都合により選考委員を辞任された。
- 8) 高峰記念第一三共賞審査委員について、第25回理事会（平成28年12月2日）において、前任者の退任に伴う補充により、1名が新たに就任された。
- 9) 顧問について、第25回理事会（平成28年12月2日）において、廣部 雅昭先生が顧問に就任された。

(4) その他

平成28年1月1日より、当法人より、給与及び報酬を支払った対象者に対し、業務委託者である第一三共ビジネスアソシエ株式会社を通じて、いわゆるマイナンバーの収集を開始した。平成29年1月25日にマイナンバーが附番された給与支払書及び支払調書を「平成28年分給与所得の源泉徴収票等の法定調書合計表」に添付して日本橋税務署また、給与支払書に関係する市町村に提出した。

Ⅱ. 平成28年度事業報告

1. 事業の総括

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	1. 研究助成 (1) 研究助成 (定款第4条-1)	55,000千円	平成27年度 @100万円×30件 平成28年度 @100万円×25件
	(2) PIセットアップ研究助成 (定款第4条-1)	15,000千円	@300万円×5件
	2. 海外共同研究支援助成 (定款第4条-2)	-千円	@50万円 (本年度休止)
	3. 研究会・シンポジウム開催助成 (定款4条-3)	-千円	@50万円 (本年度休止)
	4. 海外留学奨学助成 (定款第4条-4)	30,000千円	平成27年度 @50万円×6回×5件 平成28年度 @50万円×6回×5件
	その他助成事業費	27,821千円	
	助成事業計	127,821千円	
研究業績褒賞事業 (公2)	1. 研究業績褒賞 (定款第4条-5)	11,045千円	第14回高峰記念第一三共賞
	2. 研究業績褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催 (定款第4条-5)	6,488千円	第33回高峰カンファレンス
	その他研究業績褒賞事業費	9,677千円	
	研究業績褒賞事業計	27,210千円	
合計		155,031千円	

2. 助成事業 (公1)

(1) 平成28年度研究助成 (定款第4条-1)

1) 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。

2) プログラム：研究助成はふたつのプログラムよりなる。

ア) 研究助成

イ) PIセットアップ研究助成

3) 募集対象

ア) 研究助成：日本国内在住の生命科学分野を専攻し、優秀、かつ最先端の研究をする50歳未満（平成28年4月1日現在）の研究者。

イ) PIセットアップ研究助成

① 研究責任者（PI）として、平成26年度または平成27年度に、原則、研究

機関間の移動を伴って日本国内で新たに研究ユニットを立ち上げた、或いは平成28年度に立ち上げ予定の研究者。申請時点で海外滞在者を含む。

- ② 研究ユニット立ち上げに必要な研究用汎用機器及び備品類の購入可。
- ③ 当法人の他種助成金と重複して助成を受けることが可。
- ④ 平成28年度4月1日現在で45歳以下の研究者。

4) 募集規模

ア) 研究助成

- ① 1件当たり200万円（助成期間は、平成28年度以降2年間）
- ② 採択数：新規25件以内（継続分も含め、原則、55件以内）

イ) PIセットアップ研究助成

- ① 1件当たり300万円（助成期間は、平成28年度以降3年間）
- ② 採択数：新規5件以内

5) 募集方法：当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長等、研究機関長並びに当法人の評議員・理事・顧問、過去の褒賞受賞者（高峰記念第一三共賞）宛にポスター等送付し募集した。

6) 応募方法

ア) 理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長等、研究機関長等並びに当法人の評議員・理事・顧問、過去の褒賞受賞者（高峰記念第一三共賞）を推薦者として、応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付した。

イ) 応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼した。

ウ) 推薦者は応募者の中から、応募者選定のためのガイドラインに基づき、原則1名を公正かつ適正に選定した。

エ) 応募者は、推薦書を取得後、当法人ホームページ掲載の助成Web登録システムを通じて、推薦書及び申請書等をデータ送信。当法人事務局より確認連絡及び受付番号を取得後、当該申請書一式をコピーし、応募受付締切日までに、当法人事務局宛に送付した。

オ) 応募受付期間

- ① 研究助成：平成28年4月1日～5月31日
- ② PIセットアップ研究助成：平成28年1月15日～2月29日

カ) 応募数

- ① 研究助成：204件
- ② PIセットアップ研究助成：77件

7) 選考方法

- ア) 研究助成：第14回選考委員会による選考結果をもとに、第25回理事会にて25名の助成対象者を決定した。(附属明細書資料 - 1：平成28年度当該助成採択者参照)
- イ) PIセットアップ研究助成：第13回選考委員会による選考結果をもとに、第23回理事会にて5名の助成対象者を決定した。(附属明細書資料 - 2：平成28年度当該助成採択者参照)

8) 助成金の交付

- a. 交付方法：原則、所属機関の研究奨学金口座を通じて交付する。
- b. 交付時期
 - ア) 研究助成：2度に分けて交付する（100万円/年度）。
 - ① 初年度：平成29年1月20日～2月10日に交付完了。
 - ② 次年度：平成29年10月頃予定。
 - イ) PIセットアップ研究助成：交付時期：平成28年7月以降一括して交付。7月20日～25日に交付完了。

9) 研究成果の公表

- ア) 助成者は、助成期間終了後、論文を当法人に提出する。
- イ) 助成者は、助成期間終了後、会計報告を当法人に提出する。
- ウ) 助成者の研究成果論文を基に、研究報告集を作成し、当法人関係者、助成者並びに大学等研究機関の図書館に寄贈する。尚、本年度は、研究助成、海外留学奨学研究助成及び財団創立30周年記念助成海外帰国研究者研究継続支援助成の助成者の成果論文について、当該報告集Vol.32として、平成28年10月28日に発刊し、328箇所へ寄贈した。
- エ) 助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページにて掲載した。

(2) 平成28年度海外共同研究支援助成（定款第4条-2）（本年度休止）

- 1) 概要：海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。
- 2) 募集対象
 - ア) 海外の学者との共同研究を行っている、日本国内在住の生命科学分野を専攻する研究者で、海外の研究者との共同研究を目的とした、海外渡航或いは海外の研究者を招聘する者。
 - イ) 実施年度4月1日現在で50歳未満の研究者。
- 3) 募集規模
 - ア) 1件当たり50万円以内
 - イ) 採択数：研究会・シンポジウム開催助成と併せて10件以内

- 4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一
 - 5) 応募方法：応募方法は、「研究助成」と同一
 - 6) 選考方法：選考委員会による選考結果をもとに、理事会にて助成対象者を決定する。
 - 7) 成果：実施終了後、実施報告書並びに収支報告書を入手する。
 - 8) 助成者の氏名等を当法人ホームページにて掲載する。
- (3) 平成28年度研究会・シンポジウム開催助成（定款第4条-3）（本年度休止）
- 1) 概要：萌芽的な研究をテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。
 - 2) 募集対象：生命科学分野に関する国際シンポジウムの中で、過去に海外で開催され、助成対象期間に日本にて開催される国際シンポジウムの開催助成。
 - 3) 募集規模
 - ア) 1件当たり50万円以内
 - イ) 採択数：海外共同研究支援助成と併せて10件以内
 - 4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一
 - 5) 応募方法
 - ア) 応募者は、当法人ホームページ掲載の助成Web登録システムを通じて申請書等をデータ送信。当法人事務局より確認連絡及び受付番号を取得後、当該申請書一式をコピーし、応募受付締切日までに、当法人事務局宛に送付する。
 - イ) 選考方法：選考委員会による選考結果をもとに、理事会にて助成対象者を決定する。
 - 6) 成果：実施終了後、実施報告書等並びに収支報告書を入手する。
 - 7) 助成者の氏名等を当法人ホームページにて掲載する。
- (4) 平成29年度海外留学奨学研究助成（定款第4条-4）
- 1) 概要：海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。
 - 2) 募集対象
 - ア) 原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下である者。尚、医師免許取得者は37歳以下とする。
 - イ) 海外の大学等研究機関において、1年間以上研究に従事することを計画している者。

3) 募集規模

ア) 1件当たり600万円（助成期間は、平成29年度以降2年間）

イ) 採択数：5件以内

4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一

5) 応募方法

ア) 応募方法は、「研究助成」と同一

イ) 応募受付期間：平成28年4月1日～5月31日

ウ) 応募数：42件

6) 選考方法

ア) 第14回選考委員会による選考結果をもとに、内定候補者を決定。その後、内定候補者の辞退があったため、選考委員会にて承認された手続きに則り順次繰り上げ、上位者5名を内定候補者とした。

イ) 11月25日に、選考委員長、他選考委員を面接官として、内定候補者の面接を実施し、最終内定者（5名）を決定した。

ウ) 第25回理事会にて5名の助成対象者を決定した。（附属明細書資料-3：平成29年度当該助成採択者参照）

7) 交付時期：平成29年4月より、年6回、2ヶ月毎に、50万円を助成交付者の指定口座へ入金する予定。

8) 研究成果の公表：「研究助成」と同一

3. 研究業績褒賞事業（公2）

(1) 研究業績褒賞事業（定款第4条-5）

1) 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。

2) 褒賞名：第14回高峰記念第一三共賞

3) 褒賞対象者：生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研究者。

4) 推薦方法

ア) 理事会において選定された全国の生命科学分野の大学院研究科長・研究所長等、研究機関長、又は、当法人の理事・評議員・顧問・選考委員、過去の褒賞受賞者に推薦を依頼した（但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者よ

り除く)。

イ) 推薦期間：平成28年1月15日～2月29日

ウ) 推薦件数：本年度は、23名の推薦があった。

5) 選考方法

ア) 第一次選考：第13回選考委員会により応募候補者の選考を行い、5名の候補者が第二次候補者となった。

イ) 第二次応募候補者に対し応募の意思の確認および応募申請の要請を行った。

6) 最終選考

ア) 第14回高峰記念第一三共賞審査委員会は、応募申請書及び選考委員会結果を参考に、審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。

イ) 第23回理事会において、褒賞受賞者を決定した。

ウ) 受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由を当法人ホームページにて掲載するとともに、当法人出捐会社の第一三共株式会社よりプレスリリースを実施した。

7) 受賞者及び受賞研究テーマ

受賞者：水島昇博士（東京大学大学院医学系研究科教授）

受賞研究テーマ：「オートファジーによる細胞内分解の分子機構と生理・医学的意義に関する研究」

8) 褒賞の方法および贈呈

ア) 賞状、賞牌並びに副賞（1,000万円）を贈呈した。

イ) 贈呈式を実施し、表彰した（日時：平成29年2月1日、場所：パレスホテル東京）。出席者数：51名。

ウ) 贈呈式において、受賞者に講演を依頼。当日、受賞者の略歴・業績集を贈呈式参加者に配布した。

(2) 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第4条-5）

1) 概要：高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学術交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。

2) 名称：第33回高峰カンファレンス

3) 開催の内容

ア) テーマ：「オートファジー：基礎生物学から疾患の理解へ」

イ) 開催時期：平成29年3月13日

ウ) 開催場所：如水会館

エ) プログラム：受賞者による記念講演及び関連講演。

① 記念講演

座長：中西重忠先生（京都大学名誉教授）

演者：水島昇先生（東京大学大学院医学系研究科教授）

演題：オートファジーの分子機構と生理的意義：酵母からヒトへ

② 講演

座長：水島昇先生（東京大学大学院医学系研究科教授）

演者1：小松雅明先生

（新潟大学大学院医歯学総合研究科教授）

演題：オートファジー欠損マウスからわかったこと

演者2：松田憲之先生

（公益財団法人東京都医学総合研究所プロジェクトリーダー）

演題：ミトコンドリアのオートファジーとパーキンソン病

－解ってきたこと・解らないこと－

演者3：株田智弘先生

（国立研究開発法人国立精神・神経研究センター神経研究所室長）

演題：核酸を分解する非小胞輸送型オートファジー

－その発見と解明への挑戦－

- 4) 応募方法及び出席者数：募集期間（平成29年1月15日～2月23日）を設定し、高峰カンファレンステーマに関連する研究を行う大学大学院、研究機関等にポスター配布、当法人ホームページより参加者を募った。その結果、104名の参加者を得た。
- 5) 開催終了後の成果物：実施内容を当法人ホームページへ掲載した。

以 上

4. 附属明細書

[資料-1]

平成27年度研究助成採択者

30件（交付金：1件 100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究課題
一戸 猛 志	東京大学 医科学研究所感染症国際研究センター 感染制御系ウイルス学分野	SFTSウイルスによるNLRP3 inflammasomeの制御
井上 治 久	京都大学iPS細胞研究所	iPS細胞を用いたALS創薬分子マーカーの同定
今吉 格	京都大学ウイルス研究所増殖制御学	光作動性転写因子を用いた神経幹細胞の光操作と神経疾患治療への応用
大島 茂	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 消化器病態学講座	ポリユビキチン鎖調節によるクローン病治療法開発
大戸 梅 治	東京大学大学院 薬学系研究科蛋白構造生物学教室	自然免疫受容体による病原体認識の構造基盤の解明
小内 伸 幸	東京医科歯科大学 難治疾患研究所生体防御学分野	新規ヒト単核性貪食細胞前駆細胞の同定と感染防御機構の解明
金田 篤 志	千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学	癌症例層別化に基づく家族性大腸癌の発癌分子機構の解明
川村 晃 久	立命館大学生命科学部生命医科学科	代謝とヒストンアセチル化の制御による安全かつ効率的な心筋再生療法の確立
北川 大 樹	国立遺伝学研究所分子遺伝研究系 中心体生物学研究部門	複合的アプローチを用いた機能的な中心小体構造構築の分子機構の解明
木戸屋 浩 康	大阪大学微生物病研究所情報伝達分野	血管新生に依存しない、新たな腫瘍血管の形成メカニズムの解明
小柴 琢 己	九州大学大学院理学研究院生物科学部門 生体高分子学講座	哺乳動物におけるミトコンドリア・ダイナミクスの破綻に伴う生理的影響の解析
齊藤 博 英	京都大学iPS細胞研究所 初期化機構研究部門	人工RNAネットワークを基盤とする細胞創出技術の開発
佐々木 雄 彦	秋田大学大学院 医学系研究科微生物学講座	膜リン脂質代謝異常による心筋症発症機序の解明
佐藤 悠 佑	京都大学大学院 医学研究科腫瘍生物学講座	網羅的ゲノム解析による腎細胞癌の分子標的薬の治療効果予測と耐性獲得機序の解明
澤 智 裕	熊本大学大学院 生命科学部微生物学分野	システイン合成を標的とした新しい抗菌薬増強メカニズムの探索
菅波 孝 祥	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 臓器代謝ネットワーク講座	代謝性組織リモデリングとその変容によるメタボリックシンドロームの分子機構の解明
中島 欽 一	九州大学大学院 医学研究院基盤幹細胞学分野	神経幹細胞における、発作誘導性エピジェネティック変動制御を介したてんかん治療法の開発
中田 慎一郎	大阪大学大学院 医学系研究科細胞応答制御学	ユビキチン化によるDNA相同組換え修復の制御機構の解明

氏名	所属機関	研究課題
西 良太郎	立命館大学生命科学部生命医科学科	Nuclear speckleと呼ばれる核内構造体によるDNA修復制御機構の解明
禾 晃 和	横浜市立大学大学院生命医科学研究科 構造医科学部門構造生物学研究室	低密度リボ蛋白質受容体ファミリーにおけるリガンド結合と解離の分子機構の解明
華 山 力 成	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 免疫ネットワーク研究室	腫瘍由来エクソソームによるマクロファージの活性化と癌悪液質の発症機構
林 眞 理	京都大学白眉センター／生命科学研究科 細胞周期学講座	がん化を引き起こす染色体融合を持つヒト体細胞を可視化する新規システムの構築
疋 田 貴 俊	京都大学大学院医学研究科 メディカルイノベーションセンター	運動制御と認知機能における大脳基底核神経回路機構の解明
福 原 茂 朋	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター研究所 細胞生物学部	血管の安定化・成熟化を制御する分子メカニズムの解明
前 川 洋 一	岐阜大学大学院 医学系研究科寄生虫学・感染学分野	免疫記憶機構を標的とした難治性免疫疾患の新規治療法の開発
松 井 啓 隆	熊本大学大学院 生命科学研究部 臨床病態解析学分野	リボソームRNAプロセシング因子の変異が惹起する低形成白血病発症メカニズムの探求
松 原 亮 介	神戸大学大学院 理学研究科化学専攻有機反応化学講座	一酸化窒素の局所選択的投与を可能にする分子構造設計
水 関 健 司	大阪市立大学大学院 医学研究科 生理学第二教室	記憶形成における海馬体神経回路の動作原理
南 敬	東京大学先端科学技術研究センター 血管生物学分野	ダウン症因子とエピゲノム制御因子の内皮動的制御解析（アクセル/ブレーキ論理解明）に基づく抗血管疾患アプローチ
宮 崎 正 輝	京都大学 再生医科学研究所再生免疫学分野	Id蛋白質による転写制御とCD4T細胞の分化?活性化の調節機構の解明

平成28年度研究助成採択者

25件（交付金：1件 100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究課題
飯島 則文	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 アジュバント開発プロジェクト	性感染症を引き起こすウイルスに対する神経組織内免疫制御機構の解明
家田 真樹	慶應義塾大学医学部循環器内科	化合物による心筋直接リプログラミングと新しい心臓再生法の開発
伊藤 暢	東京大学分子細胞生物学研究所 発生・再生研究分野	肝再生の基盤を成す肝臓上皮組織可塑性の制御機構の解明
大栗 博毅	東京農工大学大学院工学研究院 応用化学部門	オリゴマー型イソキノリンアルカロイド群の迅速合成と核酸/リガンド/蛋白質三成分複合体の構築
岡 泰由	名古屋大学環境医学研究所	遺伝性小頭症発症の分子メカニズムの解明
押海 裕之	熊本大学大学院生命科学研究部 免疫学分野	DNAウイルスに対する新たな自然免疫応答機構の解明と新たな分子標的の同定
片山 義雄	神戸大学医学部附属病院血液内科	骨と骨髄の臓器連関を利用した骨髄線維症の新規治療法の開発
清中 茂樹	京都大学大学院工学研究科 合成・生物化学専攻 浜地研究室	リガンド指向性化学によるGABA受容体新規アロステリック作用薬の網羅的探索
栗本 一基	京都大学大学院医学研究科 生体構造医学講座機能微細形態学	微量ChIP-seq法による多能性基盤転写因子群の「潜在的な多能性」制御基盤の解析
胡桃坂 仁志	早稲田大学理工学術院 先進理工学研究科 構造生物学研究室	ファンコニ貧血原因遺伝子産物FANCD2によるDNA鎖間架橋修復の制御機構の解明
小早川 高	関西医科大学附属 生命医学研究所神経機能部門	先天的な恐怖情動を誘発する感覚受容体遺伝子の解明
佐藤 明子	広島大学総合科学研究科	ショウジョウバエ視細胞における頂端面内部ドメイン分化 "subapical differentiation" の分子機構の解明
佐藤 克明	宮崎大学医学部医学科 感染症学講座免疫学分野	免疫抑制性樹状細胞に発現する新規免疫チェックポイント分子の機能的同定とこれを標的としたがん免疫治療法の開発
柴田 淳史	群馬大学先端科学研究 指導者育成ユニット生活習慣病分野	免疫チェックポイント活性化に関わるDNA修復反応機構の解明
清水 逸平	新潟大学大学院 医歯学総合研究科循環器内科学	心筋鉄代謝リモデリングの心不全における意義
新開 大史	北海道大学人獣共通感染症 リサーチセンター生物製剤研究開発室	HIV-1ワクチンのためのサル内での順化プロセスを省略した新規SHIV群の開発
鈴木 健一	京都大学物質-細胞統合システム拠点	アミロイドベータ毒性発現機構の高精度1分子観察による研究
武田 朱公	大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学講座	アルツハイマー病タウ病変の脳内伝播メカニズムの解明と新規診断・治療法開発に向けた基盤的研究
千原 崇裕	広島大学大学院理学研究科 生物科学専攻	脳領野サイズを規定する分子ロジック解明に向けた遺伝統計学的アプローチ

氏名	所属機関	研究課題
中江進	東京大学医科学研究所・システム疾患モデル研究センター・システムズバイオロジー研究分野	喘息の発症機序におけるIL-1ファミリーサイトカインの機能解析
中岡良和	国立循環器病研究センター研究所血管生理学部	炎症シグナルによる肺高血圧症の病態形成機構の解明と新規治療法の開発
丹羽伸介	東北大学学際科学フロンティア研究所	軸索輸送の開始に関与する新規分子群の同定とその機能解析
野田岳志	京都大学ウイルス研究所 ウイルス微細構造研究領域	インフルエンザウイルスのゲノム間相互作用ネットワークの同定
橋口隆生	九州大学大学院医学研究院ウイルス学	MERSコロナウイルスに対する細胞侵入阻害剤の基礎研究
村山正宜	国立研究開発法人 理化学研究所脳科学総合研究センター 行動神経生理学研究チーム	触覚知覚を生成する新皮質回路メカニズム

[資料-2]

平成28年度PIセットアップ研究助成採択者

5件（交付金：1件 300万円）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究課題
岡田随象	大阪大学大学院医学系研究科 遺伝統計学分野	遺伝統計解析による新たな疾患ゲノム創薬手法の開発
小早川令子	関西医科大学附属生命医学研究所	嗅覚刺激による情動行動と生理応答の制御機構の解明
野田岳志	京都大学ウイルス研究所 感染症モデル研究センター ウイルス微細構造研究領域	エボラウイルスのゲノム転写・複製装置の構造基盤の解明
長谷耕二	慶應義塾大学薬学部生化学講座	腸内細菌由来代謝物による自己免疫応答制御メカニズムの解明
浜本隆二	国立研究開発法人国立がん研究センター がん分子修飾制御学分野	タンパク質脱メチル化酵素を標的とした新規分子標的治療薬の創生

平成27年度海外留学奨学研究助成採択者

5件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
太田 翔	京都大学iPS細胞研究所・特定研究員 University of California, Los Angeles、米国	多能性幹細胞の分化に伴う細胞種特異的NF- κ Bシグナル伝達システム構築原理の解明
笠松 純	北海道大学大学院医学研究科免疫学分野・特任助教 ワシントン大学（セントルイス）米国	自然リンパ球と適応免疫系の機能連帯に関する研究
平山 雅敏	慶應義塾大学医学部眼科学教室・特任助教 Salk Institute for Biological Studies 米国	誘導メラノプシン発現網膜神経節細胞による視機能再生
南 俊行	大阪大学大学院医学系研究科呼吸器・免疫アレルギー内科学・特任助教 カリフォルニア大学サンディエゴ校 Moore's Cancer Center 米国	肺癌とその微小環境との相互作用を標的とした新規分子標的治療薬の開発
宮林 弘至	東京大学医学部附属病院消化器内科・特任臨床医 ハーバード医科大学 米国	KRAS遺伝子を標的とした膀胱癌の治療可能性の検討

平成28年度海外留学奨学研究助成採択者

5件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
永井 利幸	国立研究開発法人国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 インペリアルカレッジ・ロンドン 英国	心不全診療における医療の質とリスクモデル構築に関する日英共同多施設レジストリ研究
永田 安伸	京都大学大学院医学研究科腫瘍生物学 Department of Translational Hematology and Oncology Research, Cleveland Clinic (USA)	骨髄異形成症候群における腫瘍発症メカニズムおよびクローン進化の解明
林 周一	国立研究開発法人理化学研究所 多細胞システム形成研究センター 高次構造形成研究チーム Department of Physiology, Anatomy and Genetics, University of Oxford United Kingdom	神経活動依存的な脳神経回路形成の制御とその異常によるヒト疾患の分子基盤の解明
宮坂 恒太	東北大学加齢医学研究所 神経機能情報研究分野 Salk Institute United States of America	脂質代謝亢進ノックアウトマウスの解析とエクササイズ・ピルの開発に向けた基礎研究
森 貴裕	東京大学大学院薬学系研究科 天然物化学教室 Swiss Federal Institute of Technology in Zurich (ETHZ) Switzerland	非天然型生理活性ペプチド化合物の創出を目的としたペプチド合成酵素の酵素工学研究

平成29年度海外留学奨学研究助成採択者

5件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
小林 枝里	東北大学医学系研究科助教 National Institutes of Health 米国	転写因子間相互作用によるmRNA質的制御メカニズムの解析
長島 駿	東京薬科大学生命科学部分子生化学研究室助教 Medical Research Council (MRC), Mitochondrial Biology Unit (MBU) 英国	細胞死におけるミトコンドリアと小胞体の接着点MAMの制御機構の解明
中山 絵里	国立感染症研究所ウイルス第一部主任研究官 QIMR Berghofer Medical Research Institute オーストラリア	チクングニアウイルス感染による関節炎の治療薬開発
林 玲 匡	東京大学医学部附属病院病理部助教 Memorial Sloan Kettering Cancer Center 米国	ゲノム、エピゲノムの網羅的解析による癌のクローン進展、再発と組織形態像の変化
平澤 一法	北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科視覚機能療法学助教 Moorfields Eye Hospital NHS Foundation Trust and UCL 英国	新しい早期緑内障検出方法および眼圧値を考慮した新しい緑内障進行モデルの構築